

第2回 若手研究者総合学術研究集会

呼びかけのことは

学術は本来学際的であり総合的なものです。それぞれの専門分野で蓄積した知を持ち寄り、現代が直面する課題と切り結びながら、それらを総合化することは学者・研究者の本来的な役割です。幸い、日本科学者会議には30代～40代の「若手」研究者が数百名の規模で集まっています。しかし、この世代が一同に集まって自由に議論する場はこれまであまり設けられてきませんでした。

そこで私たちは、昨年「若手研究者総合学術研究集会」を新たに立ち上げ、この世代の研究者が集まることのできる場を設けることにしました。第1回の集会では「戦争が予見される時代の大学」、「大学教育の現場で何ができるか」をテーマに、「安保法制時代」の学術研究のあり方をめぐって、議論を深めました。第2回目となる今回は、「大学教育で何ができるかⅡ」、「安倍政権とは何なのか？—私物化—される権力と資本主義」の2本立てで、学術研究の課題と可能性について、幅広い検討を行いたいと思います。お誘いあわせの上奮ってご参加ください。

2017年 12月24日(日) 10:30~18:00

早稲田大学早稲田キャンパス3号館304教室

【参加費】一般 1000円・学生 500円 【懇親会費】一般 4000円・学生 2000円

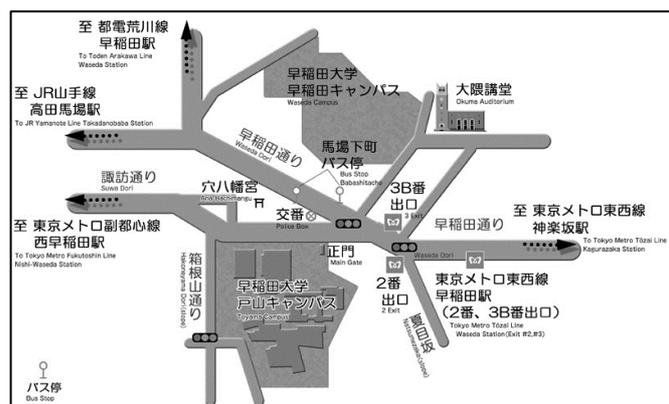
※ 当日、会場にてお支払いください。

◆参加申し込み

・参加希望者は、氏名・ご所属・懇親会出欠の有無を明記の上、12月17日(日)までに下記アドレスまでご連絡ください。

※当日参加も受付けますが、懇親会会場予約の都合上、事前のお申込をお願いできれば幸いです。

※宿泊については各自でご手配をお願いいたします。



◎参加申込連絡先: wakate.jsa@gmail.com / 事務局: 加賀美太記 (就実大学)

《主催》日本科学者会議 (JSA) 若手研究者問題委員会

第1部 10:30~12:30 (受付 10:00~)

「大学教育に何ができるかⅡ」

【趣旨】若者をめぐる厳しい社会的・経済的環境や、安保法制に象徴される政治的危機のなかで、いま大学教育にできることは何だろうか？ゼミ・自主ゼミなどで先進的な取り組みを続けている柴田努氏の報告を受けつつ、参加者と共に考えていきたい。

＜司会＞ 佐々木啓（茨城大学）

10:30~10:40 趣旨説明

10:40~11:20 報告「ゼミ運営の理論と実践」 柴田努（岐阜大学）

11:20~12:30 全体討議

第2部 13:30~18:00

「安倍政権とは何なのか？ “私物化”される権力と資本主義」

【趣旨】長期化する安倍晋三政権。安保法制や共謀罪法制に見られる立憲主義・民主主義の否定、森友・加計問題に象徴される権力の“私物化”、学術研究・教育への露骨な介入。私たちはどのように向き合っていくべきなのか。①意思決定のあり方、②政策の動向、③国際関係の変容、といった3つの角度から集中的に討議していきたい。

＜司会＞ 森原康仁（三重大学）

13:30~13:40 趣旨説明

13:40~14:40 ①権力の諸相

「安倍政権における政官関係の変質」

山本公德（岐阜大学）

「安倍政権下における大学統制と大学の自治」

川口洋誉（愛知工業大学）

「安倍晋三とドゥテルテ」

原民樹（一橋大学大学院）

14:55~16:25 ②内政の諸相

「アベノミクスと国家戦略特区」

新井田智幸（東京経済大学）

「安倍政権と女性政策」

元橋利恵（大阪大学大学院）

「福島原発事故後の環境政策の動向」

佐藤克春（大月短期大学）

「気候変動問題の解決と資本主義」

佐川清隆（東京大学）

16:40~17:40 ③外交の諸相

「沖縄における日米軍事機能強化と対抗運動」

秋山道宏（明治学院大学）

「安倍政権と日本軍「慰安婦」問題」

本庄十喜（北海道教育大学）

「軽視される多国間主義——核兵器禁止条約への対応を中心として」

真嶋麻子（日本大学）

※終了後、早稲田駅周辺で懇親会を行います。